

## 最近の教育をめぐるトピックス

平成28年5月24日  
秋 田 県 教 育 庁  
秋 田 県 企 画 振 興 部

### 地域に根差したキャリア教育の充実

家庭や地域、企業等に「キャリア教育」について発信するとともに、職場体験先やキャリアノート等に関する情報を小・中・高等学校で共有し、児童生徒一人一人のキャリア発達を保障したり、各学校における地域の活性化に貢献する活動の充実を図ったりして「地域に根ざしたキャリア教育」を一層推進する。

### 就職決定率が公立全日制・定時制ともに過去10年間で最高に

公立全日制高校における平成28年3月卒業者の就職決定率は99.7%、公立定時制高校における就職決定率は95.3%で、ともに過去10年の中で最も高い決定率となった。景気の回復に伴う求人状況の改善とともに、各校の就職支援体制の充実によるところが大きいと思われる。

### 少人数学習事業の推進

本県では、全国に先駆けて、少人数学習事業により、平成13年度から30人程度学級編制をし、対象学年を小・中学校全学年に拡充した。今後、児童数の減少による単学級化に伴う多人数な単学級への非常勤講師の配置、中学校への人的措置の改善として非常勤講師を常勤講師へと振り替えることについての検討を進める。

### 学力向上フォーラムの充実

1千人規模で実施している学力向上フォーラムは、年々県外からの参加者の割合が増えており、平成27年度は40%を超えた。今後も参加者の増加が見込めるような内容等の充実について検討を進める。

### 教員の大量退職を見据えた取組

数年後に迫ったベテラン層の大量退職期を見据え、教員の指導力の維持・向上のため、県北、中央、県南の地区ごとに「教科指導CT<sup>注</sup>の活用による指導力向上プロジェクト」を実施している。

注 教科指導CT：教科指導において中核となる教員（CTは、Core Teacherの頭文字）

## 難関大学合格者にみる現役生の健闘

東北大学合格者数（過卒者を含む。）は、平成21年度から8年連続で100人台を維持している。中でも現役生の合格者数が昨年度比11名の増加となった。医学部医学科進学者を含めた難関大学進学者数でも現役生が健闘している。平成28年度入試が初年度となった東京大学推薦入試でも1名が合格した。このように、各学校における日々の指導の成果が今年度の顕著な成果となって現れた。

## 文部科学省、平成28年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール指定校を公表

文部科学省では、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成するため、先進的な卓越した取組を行う専門高校を指定して研究開発を行う「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）」事業を、平成26年度から実施している。平成28年度は全国から55校（公立51校、私立4校）が応募し、本県の大曲農業高校（指定期間平成28年度～30年度）を含む10校が指定・公表された。

## 交流及び共同学習の推進

特別支援学校において、障害のある子どもと障害のない子どもとの共同学習を目的とした交流が、平成27年度は、幼稚園・保育所・小中学校・高校で402回、出身地域の居住地校で197回実施された。地域貢献を目的とした交流は240回、地域の行事や地域の団体との交流は799回実施され、全県的に推進された。

## 秋田県の子どもの体力・運動能力は良好

文部科学省は、平成27年12月に「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を公表した。調査対象である小学校5年生、中学校2年生の本県の体力・運動能力は全国の平均値より高い状況を維持した。また、運動習慣等調査では、運動やスポーツが「得意」「好き」と答えた児童生徒の割合も高かった。

## 食育の更なる充実

健やかな児童生徒を育成するため、望ましい食習慣の定着を目指し、地域関係者の協力を得て学校給食に地場産物を活用したり、学校給食を生きた教材として授業に活用するなど、食に関する指導の充実を図った。

## 学校安全教育の充実

国の第2期教育振興基本計画では、学校安全に関する体系的な指導を推進するために、共助・公助の視点から安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高めるための教育手法の改善・普及を図ることとしている。

## 新たな学校の開設の動き

平成28年4月に、大館桂桜高校、大館鳳鳴高校定時制課程、中高一貫教育校として秋田南高校・秋田南高校中等部が開校した。また、大館鳳鳴高校定時制課程、角館高校定時制課程にそれぞれ「スペース・イオ<sup>注</sup>おおだて」、「スペース・イオかくのだて」が設置された。

注 スペース・イオ：不登校の児童生徒等に学習支援や悩み相談などの支援活動を行う施設。

## 特別支援学校の校名変更、大曲支援学校せんぼく校の開校

特別支援学校の校名について、平成28年4月から、盲学校を視覚支援学校、聾学校を聴覚支援学校、各地域の養護学校を支援学校（例：比内養護学校→比内支援学校）に、それぞれ変更した。また、これまで仙北市角館町に開設していた大曲養護学校せんぼく分教室を、28年4月から大曲支援学校せんぼく校として開校した。角館の町並みに溶け込む和風の外観の校舎、隣接する角館高等学校定時制課程との交流学习などが特色となっている。

## 学校施設等の耐震化

文部科学省では、建物（構造体）の耐震化に比べ遅れている、体育館等の天井材や照明器具などの「非構造部材」についても、落下防止対策等の耐震対策を早期に完了するよう推進している。県立学校においては、特定天井（高さ6m超かつ面積200㎡超の吊り天井）の改修工事を、平成27年度に実施した。

## 学校施設の防災機能強化

文部科学省は、多くの学校施設が災害時の地域避難所に指定されていることから、避難経路の確保や備蓄倉庫、屋外トイレ、自家発電設備の整備等を進めるよう要請している。県立学校においては、避難所となり、かつ建築年が比較的新しい学校を中心に、太陽光発電設備及び蓄電池を、平成27年度までに22校に設置した。市町村立学校においても、順次防災機能の強化が図られている。

## 老朽校舎の長寿命化

学校施設については、築40年程度をめどに新しく建て替えるのが一般的であるが、限られた予算の中で効率的・効果的に老朽化対策を進めるため、施設の長寿命化に向けた取組についても計画的に進めるよう文部科学省では推進している。県立学校では、角館高校校舎を「スーパーリニューアル」として、構造体の補強・改修を行っている。

## 地域と学校が支え合い、地域ぐるみで子どもを育む体制がさらに充実

子どもたちの健やかな育成や地域の活性化を目指して、学校を核に地域コーディネーターを中心とした地域住民の参画により、学校支援活動や放課後・週末の子どもの居場所づくり、家庭教育の支援などを一体的に進める。平成28年度は、学校と地域の窓口となる統括コーディネーターを育成し、地域学校協働活動を推進する。

## 秋田県子どもの貧困対策推進計画を策定

子どもの将来が生まれ育った環境に左右されることのない社会の実現に向けて、本県における子どもの貧困対策の総合的な推進を図るための計画として、本年3月に策定した（計画期間：平成28年度～32年度）。福祉・教育の両分野が連携し、子どもの貧困の早期把握と支援制度への適切なつなぎ、支援のための連絡・調整、切れ目のない細かな支援に向けた地域体制の整備の視点から、教育支援、生活支援、保護者の就労支援、経済的支援に取り組むこととしている。

## 学校図書館活性化支援

平成27年度までに全ての市町村が「子ども読書活動推進計画」を策定し、地域の図書館を拠点とする読書の推進体制が整った。これを踏まえ、平成28年度は、「学校図書館活性化支援」により学校における読書活動の推進を重点とし、魅力ある学校図書館づくりとその活用を進めることとし、学校訪問による情報提供・助言を行うとともに、司書教諭や学校司書等を対象に研修講座を実施する。

## 第2次秋田県読書活動推進基本計画がスタート

第2次基本計画（平成28年度～32年度）では、「家庭」「学校」「職場」「地域」という県民の生活の場に応じて、県民の共感を高めながら施策を展開するとともに、市町村、企業、民間、団体等と連携・協力し、県民総ぐるみの読書活動に取り組む。特徴的な施策としては、女性、子育て・働き盛り世代の読書時間の確保のため、職場において気軽に本に親しめる環境づくりに向けて企業内文庫の設置を促進するほか、市町村長が「秋田県ブッカーリーダー」として地域読書を牽引するなど、市町村との協働による読書活動の推進体制を強化することとしている。

## 縄文遺跡群世界遺産登録の推進について

文化庁は、世界文化遺産特別委員会において平成28年度にユネスコへの推薦を希望する4資産について審議する方針を示した。この中には「北海道・北東北の縄文遺跡群」が含まれている。本年3月には世界遺産登録推進議員連盟が設立されたほか、4月には4道県の知事等から文部科学大臣及び文化庁長官に推薦決定に向けた要望書を提出した。

## ユネスコ無形文化遺産について

「角館祭りのやま行事」など本県の3件を含む「山・鉾・屋台行事」は、ユネスコ無形文化遺産登録に向け、平成27年3月に提案書が提出され、本年秋の登録を目指している。また、「男鹿のナマハゲ」を含む「来訪神行事」が本年3月の提案書提出を経て、平成29年秋の登録を目指すこととなった。

## 有形文化財の保存について

秋田藩主佐竹氏の菩提寺で重要文化財である天徳寺は、本堂が貞享4年（1687）、書院が文化3年（1806）の建立である。建立以来根本的な修理がなされていなかったが、永続的保存に向けて半解体を伴う根本修理事業が平成27年度から開始された。本格的な修理に向けて、平成28年度は素屋根建設や足場設置が行われる。

## 日本遺産について

平成28年度の日本遺産認定に向けて、秋田県案「菅江真澄が記した江戸時代の秋田—あきた今昔ものがたり—」と、大仙市、仙北市、美郷町案「豊穰を願う雪国のまつりと水への祈り～美田・美酒・美人の郷「あきた仙北平野」～」の2件を申請したが、認定されなかった。引き続き、認定を目指した取組を進める。

## 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+<sup>注</sup>）

文部科学省が平成27年度に公募した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に、秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校が県や企業等と連携して行う事業が採択された。地域社会に貢献できる人材の育成や、就職支援体制の強化・就職希望のマッチング機会の拡大による若者定着の促進等に取り組み、27年度からの5年間で卒業生の県内就職率10%アップを目指す。

注 COC+：従前の「地（知）の拠点整備事業」（大学 Center of Community 事業）を地方創生の観点から拡充したもの。

## 新規大学等卒業者の就職内定率が過去最高に

県内の大学・短大・高専・専修学校の平成28年3月末現在の就職内定率が99.3%となり、平成12年度の統計開始以来、最高となった。就職希望者は2,334人、うち県内就職希望者1,100人に対し、県内企業への内定者は1,093人、県内内定率は99.4%。